

■コメント

1. 腸管出血性大腸菌感染症

2件の報告があり、今年の累計は8件となりました。

例年気温が高い時期に感染者が多くなる傾向があり、注意が必要です。感染予防を徹底しましょう。(次頁参照)

2. 手足口病

定点当たり4.83人と、多い状態が続いています。

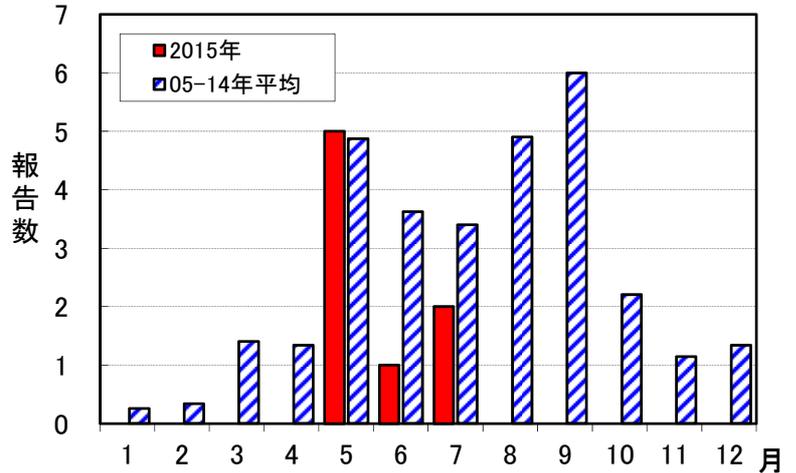
3. ヘルパンギーナ

定点当たり3.00人と、前週よりやや増加しました。

手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱は、いわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患です。例年夏季に向けて増加しますので、引き続き手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)

(2015年7月5日現在)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減							
												↑	↓								
小児科	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	43	1.79	0.87		増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減						
	咽頭結膜熱	14	0.58	0.78			RSウイルス感染症	-	-	0.04			微増減	↖	↗	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減					
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60	2.50	1.42		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		横ばい		↔	↔	ほとんど増減なし					
	感染性胃腸炎	138	5.75	4.43			流行性角結膜炎	6	0.75	0.60			基幹	報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。	<table border="1"> <tr><td>インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)</td><td>37</td></tr> <tr><td>小児科定点数</td><td>24</td></tr> <tr><td>眼科定点数</td><td>8</td></tr> <tr><td>基幹定点数</td><td>7</td></tr> </table>	インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37	小児科定点数	24	眼科定点数	8
	インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37																			
	小児科定点数	24																			
	眼科定点数	8																			
	基幹定点数	7																			
	水痘	4	0.17	0.99		細菌性髄膜炎	-	-	0.11												
	手足口病	116	4.83	5.87		無菌性髄膜炎	-	-	0.09												
伝染性紅斑	6	0.25	0.35		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.43													
突発性発しん	16	0.67	0.65		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-													
百日咳	-	-	0.04		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14														
ヘルパンギーナ	72	3.00	2.30																		

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	73	男性(30歳代)・推定感染地域: 国外、男性(60歳代)
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	8	女性(10歳未満)・O26・2人
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	13	女性(80歳代)、女性(90歳代)
5	破傷風	1	1	男性(60歳代)

## ■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第23週 第24週 第25週 第26週 第27週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)		
			4	15	96	147	10	33	6	14	1	4	37	-	-	10	-	-	-	-	-	3	
定点当たり	広島市	第23週	0.11	0.63	4.00	6.13	0.42	1.38	0.25	0.58	0.04	0.17	1.54	-	-	1.25	-	-	-	-	-	0.43	
		第24週	0.03	0.67	4.17	6.42	0.42	2.25	0.04	0.58	-	0.75	1.00	-	-	0.63	-	-	0.29	-	-	0.43	
		第25週	-	0.71	2.75	6.46	0.08	3.54	0.13	0.42	-	1.17	2.21	-	-	1.38	-	-	0.29	-	-	0.29	
		第26週	-	0.92	2.83	5.96	0.38	4.79	0.08	0.58	-	2.46	2.04	-	-	0.38	-	0.29	0.29	-	-	-	-
		第27週	-	0.58	2.50	5.75	0.17	4.83	0.25	0.67	-	3.00	1.79	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	0.14
	全国	第25週	0.13	0.82	3.13	6.19	0.45	3.49	0.89	0.65	0.02	1.10	0.49	0.10	0.02	0.75	0.01	0.05	0.27	0.01	0.13	0.13	
		第26週	0.11	0.74	3.03	5.80	0.45	4.56	1.12	0.68	0.02	1.49	0.56	0.08	0.01	0.77	0.01	0.03	0.26	0.02	0.08	0.08	

## ■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	発熱 髄膜炎	14	男	2015/05/04	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス30型
その他の呼吸器疾患	発熱(39.4) 上気道炎 熱性痙攣	1	男	2015/05/15	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(39.5)	6	男	2015/05/18	咽頭拭い液	アデノウイルス4型
その他の発疹性疾患	発疹 口内炎	0	男	2015/04/29	咽頭拭い液	エンテロウイルスNT

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

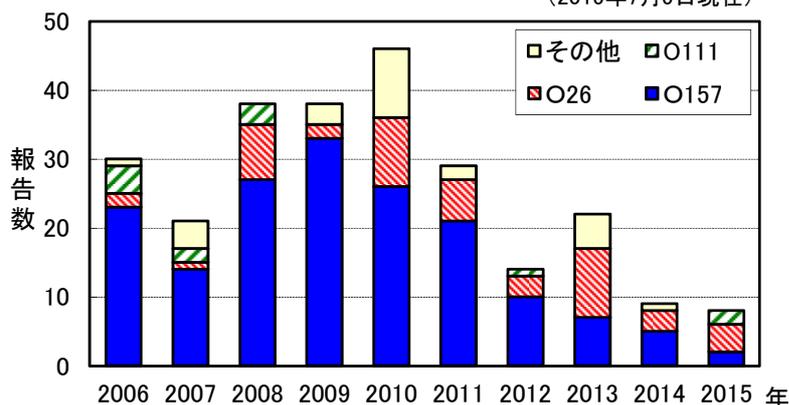
## ★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、わずか数十個でも感染すると考えられています。汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。症状は、下痢・腹痛・血便などで、特に乳幼児や高齢者は重症化しやすいので注意が必要です。

予防のために、次のことに特に注意しましょう。

- トイレの後、調理の前、食事の前には手洗いを励行しましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。また、肉・レバーなどは中心部まで十分加熱し、生食は控えましょう。
- オムツの取り扱いには十分注意しましょう。
- 家庭用プールなどを介して感染することも考えられるので、衛生管理に気をつけるとともに、入る前によく体を洗いましょう。

年間報告数の推移 (2015年7月5日現在)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2015年第27週(6月29日～7月5日)